

重症 COVID-19 患者における栄養療法に関する研究

○研究の概要

重症 COVID-19 患者さんに対する栄養療法の有用性についての報告は少ないです。本研究は、栄養療法と患者さんの治療経過の関連を把握するものになります。

本邦の重症 COVID-19 患者さんにおいて、早期経腸栄養開始や目標栄養投与量を探ることは、治療支援のため重要な事項と考えます。

○研究の目的と方法

本研究の目的は、重症 COVID-19 患者さんの栄養療法と生存の有無や人工呼吸管理日数などの関連について検討することです。日常診療で得られた臨床データ（年齢、性別、身体所見や生化学検査など）を電子カルテから集計・統計分析を行う後ろ向き研究です。

○本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

○調査する内容

本研究は、令和3年7月1日～令和5年3月31日の期間中、国立病院機構仙台医療センターに入院し人工呼吸管理を施行した患者さんを対象としています。新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究終了後の収集したデータは、鍵をかけたファイルにて5年間保管ののち、破棄いたします。

○実施期間

研究対象期間：令和3年 7月 1日～令和 5年 3月 31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和 7年 3月 31日まで

○研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 / 熊本大学大学院 医学教育部 医学専攻 外科系 臨床国際協力学講座
加來正之

○当院における研究責任者

国立病院機構仙台医療センター 栄養管理室 榎本雄介

○問い合わせ先

国立病院機構仙台医療センター 栄養管理室 榎本雄介
電話：022-293-1111